

|                          |
|--------------------------|
| 一般廃棄物処理基本計画改定<br>第4回専門部会 |
| 平成 27 年 6 月 29 日         |
| 参 考 資 料 2                |

## 神戸市一般廃棄物処理基本計画改定に係る第3回専門部会 【論点整理】

### ● 2R（リデュース・リユース）の推進

（施策内容について）

#### ①「簡易包装の推進」（委員アンケート1位）

- ・消費者側・提供側双方の簡易包装へのニーズと、品質確保の問題がある。（寺下）
- ・徹底している店舗と何枚もレジ袋を渡される店舗がある。業者側の問題。（高尾）
- ・買ったものをその場でラップをはずしている人がいるが、ごみになるだけでは。帰ってから分別するほうがよい。（高尾）  
→包装はいらないという、消費者から販売店に対する意思表示と捉えている。（花田）  
→店舗では洗ってリサイクルできないためごみとして出している。食品の入れ替えは品質が保証できないので困っている。（寺下）
- ・販売メーカー側のパッケージデザインの工夫を呼びかけている。「い・ろ・は・す」（軽量ペットボトル）のような業界を牽引する成功事例を増やしていきたい。（小島）
- ・品質のよいものを販売してもらえらるなら包装にお金をかける必要はない。（奈良山）

#### ②「燃えるごみ減らそう生活の実施」（同2位）

- ・秤を持っていない人には難しい（取組の困難さ）と考えて優先順位を下げた。（小島）
- ・（委員アンケートより：市民・事業者代表の支持が高く、学識経験者の支持が低い）

#### ③「台所ごみの水切り徹底」（同3位）

- ・ごみ減量はその時はできるがすぐに忘れてしまう。定期的な啓発活動が重要。（高尾）

#### ④「食べきりの推進」（同3位）

#### ⑤「マイバッグの推進、レジ袋削減の拡大」（同5位）

#### ⑥「マイカップ・マイ箸・マイ食器の推進」（同6位）

#### ⑦「古着・古布のリユース」（同7位）

#### ⑧「リターナブルびんの推進」（同8位）

#### ⑨「段ボールコンポストの推進」（同9位）

#### ⑩「ワケトンエコショップ制度」（\*現行施策）

- ・参加する店舗のメリットがないのでは。専門部会で深ほりしていくべき。（花田）  
→ワケトンエコショップやレジ袋削減など消費者に対してマイナス面がある取組は、市の施策であったほうが、社会的運動と認知してもらいやすく、事業者も取り組みやすい。（寺下）

(検討方法について)

① 施策検討にあたっての視点 (委員アンケートより)

- ・「誰でもできること」「やりやすさ」「わかりやすさ」「市民の意識を高めること」がキーワードとなっている (中野)
- ・各委員の視点を一覧にして配布してほしい。(花田)
- ・やりやすいことを考えないことには。(奈良山)  
→ごみ減量だけに時間をかけられない方が多い。(中野)

(確認事項)

- ① 「食べきり協力店」や「マイボトル運動」は事業系一廃に対する取組では。(寺下)  
→市民が協力することでライフスタイルに直接影響を与えるという趣旨。(中野)

● 情報提供・啓発の推進、リサイクルの徹底

(施策内容について)

① 「雑がみの分別ルール周知の継続」(委員アンケート 1位)

- ・紙かプラスチックかわかりにくくなっているため、マークを見て適切に捨てるよう周知する必要がある。(藤原)
- ・知っていてもなかなか実践されないなので、きちんと啓発を。(藤原)

② 「PC やスマホなどを利用した分別情報やごみ出し日情報の発信」(同 2位)

- ・興味・関心が多方面に広がる 18~30 歳手前は、意識が低いというより他に気持ちがいつている。(小島)
- ・コストをかけずデザインで解決している事例がある。神戸市の「デザイン都市」としての政策とマッチするのでは。(小島)
- ・学生はスマホ普及率が高いのでアプリは非常によい。若年層とのコミュニケーション方法を考えていくのがよいのでは。(小島)
- ・ポイント制は、相当良いインセンティブがなければ効果が生まれないと思う。(小島)

③ 「共同住宅所有者の入居者へのルール啓発の推進」(同 2位)

- ・マンション住民より管理会社へのルール啓発を。大阪の管理会社が多く、神戸市の指導に対して消極的な会社もあるのでは。(奈良山)

**注記：市では管理会社への啓発を実施している**

- ・マンション建設時にはルールを守ると言っていたが、年月が経つと忘れて、関心を持たない管理会社が増えていると思う。(奈良山)
- ・新規住民に対しては、免許更新と同じように、住民票登録時に教育するのはどうか。最初に教えるのが非常に大事で、効果があると思う。(藤原)

**注記：市では新規住民への啓発を実施している**

- ・教育は細かくこまめに。地域の中ではそれくらい大変なこと。行政と協力しないとできない。(高尾)

④「容器包装プラスチックの分別ルールの周知」(同4位)

⑤「指定袋制度の周知・啓発」(同5位)

⑥「小型家電リサイクル制度の周知啓発、回収量の増加に向けた取り組み」(同6位)

⑦「大学等との連携事業」(同7位)

## ●高齢者対応

### (施策内容について)

- ・高齢者は(分別すると)運ぶのが大変なので「ごみ」にいられてしまう。自分の地域(中央区)では福祉団体(兵庫区)が2階からごみ出しをしてくれている。一方、自分の地域(中央区)の集団回収量が減少し、地域の収入が減少するというマイナス面もある。(後藤)
- ・無料になると外国人による持ち去りが起こっている。(後藤)
- ・新規住民の中には自治会に参加しない人も増え、回覧を回しても通じないのが悩み。(後藤)
- ・高齢者のごみ出し支援に対するキャッチフレーズがないか。(中野)
- ・水俣市では中学生がごみ出し支援をしている。環境教育と福祉教育のマッチング。(小島)
- ・地域の福祉をベースに、取れないごみは市が収集すればよい。片手で自宅のごみを、もう片手で高齢者の家の前に出されているごみを持っていくのはどうか。(藤原)  
→神戸市で象徴的な運動になるのでは。誰でもできる。(中野)

## ●その他

- ・カラス対策として、クリーンステーションにバスの時刻表のような収集時刻表をかけられないか、という声がある。(小島)
- ・委員意見を元に具体的施策をまとめていただきたい。(中野)

(以上)